

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館  
平成30年度 第1回 定時理事会  
議 事 録

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館

平成30年度 第1回 定時理事会

日時 平成30年5月2日（水）  
午後1時20分  
場所 調布市東部公民館  
学習室

出席役員（8人）

理事長	武者小路 知行
常務理事	大 木 正 勝
理事	柏 原 公 毅
理事	安 本 登喜子
理事	濱 嶋 稔
監事	新 井 七 吾
監事	源 後 哲 郎

相談役 福 田 宏

事務局	局長代理	福 島 さとみ
	主幹	生 野 正 毅
	次長	伊 藤 陽 子
	総務係主任	石 井 めぐみ

陪 席	郷土博物館	館長	高 野 千 尋
		副館長	半 澤 清 美
		管理係係長	杉 本 祐 二
		管理係主任	高 木 政 明

（午後2時35分 閉会）

[議事次第]

－理事長挨拶－

第1 議題

(1) 審議事項

- ア 議案第1号 平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業報告(案)の承認について
- イ 議案第2号 平成28年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館決算書(案)の承認について

(2) 報告事項

- ア 報告第1号 平成30年度調布市議会第2回定例会に提出する平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の経営状況報告について

第2 その他

○事務局　　どうもこんにちは。定刻より１０分ほど早い始まりになりますが、これより、平成３０年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の第１回定時理事会を開催させていただきます。

私は、当財団の事務局長の大木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

平成３０年度でございますが、私ども一般財団法人調布市武者小路実篤記念館のほうは、定期人事異動等に伴う異動はございませんでした。また、昨年と同様の人員と組織体制で、１年間、事業運営に邁進してまいります。どうぞよろしく引き続きお願いいたします。

本日、私ども調布市のほうで所管していただいております調布市郷土博物館のほうから、４名、理事会にお越しいただいております。人事異動等がございまして、郷土博物館のほうは、顔ぶれがかわっておりますので、それでは、高野館長のほうから、ご紹介のほうをお願いいたします。

○高野館長　　ただいまご紹介にあずかりました郷土博物館長の高野でございます。引き続きどうぞよろしくお願いをいたします。

４月１日に、管理係長の杉本が、また５月１日付で、副館長の半澤が赴任しておりますので、ご紹介を申し上げます。

逆になりますが、５月１日付、副館長の半澤でございます。

○半澤副館長　　半澤と申します。どうぞ、皆様、よろしくお願いします。

○高野館長　　４月１日付で、管理係長ということで、杉本でございます。

○杉本管理係係長　　杉本でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○高野館長　　引き続き、実篤記念館の担当として、高木主任が窓口になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○事務局　　ありがとうございます。

それでは、１年間、私ども、所管していただいております郷土博物館と連携しながら、業務運営してまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、本財団法人は、本年の４月をもちまして、調布市武者小路実篤記念館の指定管理者としては、５年目に入りました。既に４年ということでございます。指定管理者としての最後の１年を務めさせていただいております。

また、来年度につきましては、新たな調布市武者小路実篤記念館の指定

管理者が選定されるということになります。今年度中に、その指定がまた改めて行われるということになります。私どもも、また改めて指定管理者を受託すべく、さまざまな準備を行っております。また、皆様にも、いろいろご意見やご指導を頂戴することがあるかと思いますので、その点につきましても、どうぞよろしくお願いいたします。

本日、お手元には、理事会の事業報告、決算報告以外に、定例会以降の資料につきましても、配付させていただいております。これにつきましては、また後ほど、事業報告と決算報告の審議をいただいた後に、事務局のほうから、簡単ではございますけど、ご説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、まず初めに、武者小路理事長のほうから、一言ご挨拶をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○武者小路理事長　先ほどもちょっと申し上げましたけど、大分、気候の進行が例年と違って、実篤公園の花なども1週間ほど早目に咲いているというような状況のようです。この夏、どういうふうになってくるのか、少し心配な向きもあるぐらい暑い日が続いております。

記念館のほうも、今年、指定管理者としての最後の年、来年度以降、また新たに指定を受けるための大事な年になります。それとともに、新しき村の創立100周年を迎えましたので、それもあわせて、実篤について、広く世間に知ってもらおうという1つの機会になるんじゃないかと思っておりますので、皆様方にもご協力をお願いすることがあると思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局　どうもありがとうございます。

それでは、理事会の開始に当たりまして、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の定款第33条の規定により、第1回理事会の議長につきましては、理事長が行うこととなっております。これからの議事については、武者小路理事長のほうに、よろしくお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

○武者小路理事長　それでは、議長のほうを務めさせていただきます。議事進行につきまして、皆様方のご協力をお願いいたします。

初めに、本日の理事会の定足数について、事務局のほうからの報告をお願いいたします。

○事務局　本日の理事会でございしますが、理事6名の方のうち5名の理事に、出席を頂戴しております。1名、岩本理事につきましては、所用の

関係で、本日、欠席となっております。

一般財団法人調布市武者小路実篤記念館定款第34条の規定により、6名のうち5名が出席されておりますので、本理事会は成立しているということをご報告いたします。

なお、本日は、新井監事、源後監事にもご出席をいただいております。よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○武者小路理事長　それでは、次に本理事会の議事録の署名につきまして、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の定款第37条の規定により、理事長の私と本日出席されている新井七吾監事、源後哲郎にお願いすることにいたします。

続きまして、議事次第のとおり議事を進行してまいります。初めに、議案第1号「平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業報告（案）の承認について」を議題といたします。事務局のほうから、ご説明をお願いいたします。

○事務局　議案第1号「平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業報告（案）の承認について」。上記の議案を提出する。平成30年5月2日。提出者、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館理事長、武者小路知行。提案理由、平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業報告の承認を求めるため、提案するものであります。

お手元にごございます平成29年度事業報告（案）を見ながら、ご説明をさせていただきたいと思っております。

まず、1ページ目の概要のところの最初でございますが、平成29年度は、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館が発足して、5年目を迎えました。指定管理者としての業務受託、4年目ということでございます。

8ページの総括のところから、まずお話をさせていただきたいと存じます。

平成29年度は、外部との連携に力を注いだ年でございました。その中でも、オンラインゲーム「文豪とアルケミスト」とのコラボレーション企画を開催いたしました。こちらのコラボレーション企画のときには、入館者数が大変多くなりまして、また、このコラボレーション企画に来館された若い年齢層の方々が、その後も繰り返しご来館いただくというような行動に出ていただけたということがありまして、そのことから、平成29年度の来館者数が非常に伸びたということがございます。

8 ページ中ほどでございますが、平成 29 年度の年間利用者数が、実篤記念館の入館者数で 1 万 1,233 人、公園を含む総利用者数で 4 万 1,120 人となっております。

本日お配りいたしました中に、実篤記念館と実篤公園、3 年間の利用者推移がございます。参考資料の 2 番になります。本日お配りしたものでございます。

そのグラフの下に一覧表がございますけれども、記念館の利用者人数のところで、平成 27 年度が 9,956 人であったのですが、これが、これまでの最高人数、利用者数でした。それが、平成 29 年度には 1 万 1,233 人ということで、大幅に利用者数が増加したということが、こちらからもごらんいただけるかと思えます。

公園の利用者数に関しましても、同様でございます、平成 29 年度、飛躍的に大きくなってございます。

平成 29 年度は、先ほど申しましたとおり、外部との連携ということで、大きくは、オンラインゲームとのコラボレーション、もう一つ大きなものとしたしましては、高鍋町美術館の展覧会の受託開催ということでございました。

高鍋町美術館の特別展「武者小路実篤・新しき村 人間萬歳」は、武者小路実篤が創設しました新しき村が、平成 30 年の 11 月に 100 周年を迎えるということで、それを記念して、その前年に開かれたものでございますが、こちらの企画について、当財団のほうで、全面的に受託を受けて、開催をいたしました。こういったことが、広く武者小路実篤を紹介する、よいきっかけになったと考えております。

戻りまして、10 ページの事業内容のほうをごらんいただきながら、ご説明をしてみたいと存じます。

平成 29 年度は、春の特別展といたしましては、「武者小路実篤の出版事情～『白樺』『大調和』を中心に～」という特別展を開催いたしました。こちらは、出版にかかわることをテーマといたしまして、自筆資料などのほかに、出版に関する資料なども展示して、そういった出版に関する興味を持ったお客様にも来ていただけたとなりました。

また、秋の特別展といたしましては、「素直に楽しむ 武者小路実篤と民藝」という展覧会を開催いたしました。こちらは、武者小路実篤のコレクションの中の民藝品を取り上げて、これまで、本格的に調査をしてこなかったものでしたので、平成 28 年度、平成 29 年度の 2 カ年にわたって、

日本民藝館の協力を得て、調査をし、その成果を、企画特別展として、皆様にご披露したというものでございます。

こちら、民藝の提唱者である柳宗悦が白樺の仲間であるということ、柳、民藝というものについては、根強く人気があることから、武者小路実篤だけでなく、そういった関心の方々にもごらんいただけるという形になりました。

そのほかに、5回の展覧会を開催しております。

その中で、この10ページの表の上から3つ目でございますが、郷土博物館と一部共催のコーナーを設けまして、夏休みの展覧会、子供向けの展覧会の中で、「実篤公園は縄文遺跡だった？」というコーナーで、郷土博物館にご協力をいただいて、遺跡、遺跡から出土した遺物などの展示と、調布の歴史についての解説を行うという形で、郷土博物館との連携を行いました。

続きまして、普及事業のほうへ参ります。普及事業のほうといたしましては、武者小路実篤を核とする特色ある事業運営と事業活動ということで、さまざまな講座やワークショップなどを開催してまいりました。

特別展に関連いたしまして、春は5月に、「『白樺』を支えた洛陽堂の主人 河本亀之助」という講演会を開催いたしました。こちら、この田中英夫さんという方、研究者ではあるのですが、洛陽堂に関する研究というものをお聞きいただくチャンスがなかなかないということで、出版に関する興味のある方にも来ていただけたという形になりました。

同じく特別展に関連いたしまして、13ページの一番上になりますが、「民藝と柳宗悦と武者小路実篤」という講座とギャラリートークを続けて行いました。こちら、日本民藝館で、長く民藝について、ご研究をされてこられました杉山享司さんに、講師としておいでいただき、専門的なお話をしていただきつつも、展覧会もごらんいただきましたので、実地で物を見ながらの話ということで、やはり人間にご興味のある方々にもご参加いただけたということがございました。

12ページの上のほうですが、夏休みの自由研究サポートですが、こちらは、毎年、夏休みの展覧会シーズンに、子供たちの学習をサポートするために行っているものですが、こちらはすっかり根づきまして、常に子供たちが参加しているという状況でございました。

平成29年度に関しましては、実篤事典をつくらうということで、ワークシートに書き込んで、簡単に冊子につくれるという形にして、宿題とし

て持って帰れるというサポートをいたしまして、こちらも、子供たちが参加してくれました。

平成29年度は、展覧会を鑑賞するためのさまざまな工夫というものに力を入れました。

12ページの中ほど以降に、幾つか提示しているのですが、「ちょこっとメモする展覧会鑑賞ノート!」、「展覧会をじっくり見るためのヒントカード」、13ページのほうで、「実篤の言葉おみくじ」であるとかということで、こういった工夫をすることで、展覧会を見る動機づけにすることに取り組みました。

本日お配りした参考資料1の1ページ目の右側の真ん中、2段目のところに、画像を載せておりますが、「展覧会をじっくり見るためのヒントカード」は、これを持って、展覧会を見ることで、ただ見るのでは気づかないところまで見ていただくという工夫です。

「実篤の言葉おみくじ」に関しましては、入館するときに、おみくじを引いていただいて、その言葉を展覧会の中で探すといった工夫をすることで、展覧会を見る興味を持続させるという工夫をしてきました。

続きまして、学校教育との連携でございます。14ページになります。毎年、恒例になっておりますが、夏休みの自由研究サポートの案内のプリントを、小中学校の全生徒に配布いたしました。

これにつきまして、3年前からなんですが、中学生に、その冊子の表紙を描いてもらうということをしてしております。参考資料の1、写真集ですが、その2ページ目の左下のところに、第四中学校の美術部の生徒さんに描いてきてもらった表紙を、こちらでご紹介しておりますが、こういった形で中学生に参加してもらうということで、より興味を持ってもらうという工夫に取り組んでおります。

読書週間などを中心に、図書室でのパネル展示を行っておりまして、こちらも、平成29年度も、第八中学、第六中学、第四中学で、図書館でパネル展示を行いました。

また、その後になったのですが、新しいパネル3種類をつくりました。こちらは、現在も文庫本で読める作品を紹介して、読書につなげようというもので、平成30年度から、また、新たな図書館での展示に活用していくものとして、作成をいたしました。

平成29年度は、講師派遣が非常に多くございまして、これも外部との連携ということになるかと思いますが、近隣の市からの講師依頼を受けた

り、民間の絵手紙協会といったところから、講師の依頼を受けて、お話をすることで、記念館にはまだ来たことのない方、あるいは、来られないような距離の方のところでも、実篤に興味を持ってもらうというチャンスを提供しました。

講師派遣の表の16ページのところに、北部公民館の芸術鑑賞講座もございますが、こちら、市内の施設との提携ということで、北部公民館で、実篤、民藝に関する特別展にかかわるところでございますが、講座と見学会という形で、実施いたしました。

高鍋町美術館でも、ギャラリートークを開催しております。

次に、ボランティア事業でございますが、こちらはボランティアガイドが定着しておりまして、利用者も非常に多くなっておりまして、期待も高まっております。

また、朗読につきましても、平成29年度は、展示解説、外部での講座の際に、ボランティアの方に朗読をいただいて、好評をいただいております。

17ページ、広報事業でございます。平成29年度の特徴的なこととしては、ツイッターの独自アカウントを開設して、こちらで情報発信をするようにいたしました。これは、夏の期間に開催いたしましたゲームとのコラボレーション企画に際しまして、若い年代層が、インターネット、ツイッターでの情報に頼る傾向があるということで、こちらでの発信によって、よりよく情報伝達をしようということで、始めたものです。

これまでは、調布市の市の広報課が運営しておりますツイッターに、折々、ツイートしておりましたが、独自アカウントの開設によりまして、今、起きていることに対する情報発信がすぐにできるということで、即時性、ゲームを通じて、新しく実篤に興味を持った方の興味を持続するためのさまざまな話題の提供などを、こちらで行いました。

ツイッターの独自アカウントに関しましては、7月に開設しましたが、3月の末までに、フォローしてくださる方が1,000人に達するというので、有効な情報発信ツールになっていると考えております。

印刷物編集・刊行につきましては、特別展、子供向けの解説シート、館報などは、例年どおりに発行いたしました。

18ページでございますが、『画をかく喜び』という画集を、昨年度、平成28年度に発行したものが、非常によく売れておりまして、足りなくなりそうだということで、平成29年度に増刷をいたしました。

ぐるっとパス事業につきましても、平成29年度も参加し、こういったぐるっとパスでのさまざまな広報に載ることで、記念館を知っていただき、またおいでいただくチャンスになったと考えております。

18ページの視察に関してですが、平成29年度に関しましては、ゲームとのコラボレーションに関して、他の文学館から非常に関心を持たれまして、さまざまな地域、文学館からの視察に、たくさんおいでいただきました。

19ページですが、ミュージアム・エデュケーター研修というものがありまして、こちらに当館の学芸員が参加したんですけれども、その参加した館の実施についての様子を見るという形で、文化庁から実篤記念館の実施についての調査の受け入れをいたしました。

資料収集・管理でございますが、収集につきましては、この表にあるとおりでございます、図書なども含めて、こういった数の寄贈が691点、購入が151点、合計で842点の収集をいたしました。

このうち、購入で、原稿の購入1点につきましては、美術作品等収集基金を活用させていただきまして、これまで寄託を受けておりました『真理先生』、武者小路実篤の戦後の代表作となる『真理先生』の原稿を、基金で購入という形で、取得いたしましたものです。

資料管理に関しましては、作品の貸し出し、写真資料などの貸し出しについて、こちらに記載してございます。19、20、21ページで記載してございます。

資料整理・保存に関してで、平成29年度の主なものといたしましては、収蔵庫の燻蒸がございましたので、これに伴う作業というものを行いました。

データベースの配架欄と現物調査ということで、配架場所をデータベースに反映するという作業を主に行っています。

作品・資料の修復・複製でございますが、武者小路実篤の書画類で、表具などが傷んでいたもの、あるいは、しみが出ていたものについて、修復などを行っております。

24ページの上でございますが、平成30年度に新しき村が100周年を迎えて、さまざまな展示活動などあることから、新しき村に関する書簡と原稿の複製を作成いたしました。

1つ飛びまして、24ページ、(5)の閲覧・サービスでございますが、こちらの表にございますとおり、平成29年度は、閲覧も、利用者数が大

変増加いたしました。夏のゲームとのコラボレーションに訪れた20代、30代のゲームユーザーの方々が、本を読むこと、資料を調べるということに対して、関心が非常に高く、閲覧室もよく利用してくださいました。その結果といたしまして、閲覧室の利用者数が1,540人ということで、こちらも、これまでに比べて、飛躍的に増加しております。

特別閲覧に関しましては、これは他館での展覧会の準備であるとか、研究者の資料研究に対応ということで、こういった3件を受けております。

25ページ、(6)番ですが、調査・研究に関しましては、例年度とおりではございますが、特別展に関する、平成29年度、平成30年度に開催予定をしておりました展覧会に関する調査が主でございます。

先ほど、特別展のところでもご紹介いたしましたが、25ページと26ページにわたりまして、民藝に関して、民藝館のご協力を得て、調査を行いました。

また、平成29年度の特徴的なものとしたしましては、平成30年度に100周年を迎える新しき村に関する現状調査を行いました。26ページの下の方から、27ページにかけてございますが、日向の新しき村へ伺って、現状の調査、聞き取りなどもいたしました。また、埼玉も同様でございます。

また、日向に関しましては、現状の撮影もいたしました。平成30年度に、映像資料として編集し、公開を予定しております。

27ページ中ほどにございますが、長與純三氏所蔵資料の調査ということですが、雑誌『白樺』に参加した作家、長與善郎氏に関する資料を調査するということで、長與純三氏から、昨年度末にお借りをして、平成30年度に、これから調査し、その成果をまた特別展などで、皆様に公開していくということを予定しております。

28ページでございますが、自主事業といたしましては、物販事業といたしましては、既にご存じかと思いますが、限定チョコレートを例年どおり販売いたしましたが、こちらが非常に好評でした。限定チョコレートに関しましては、高鍋町での美術館での展示のときに、先行販売をいたしましたことが、話題を呼びまして、1月の発売を待たれるという形で、発売しましたら、物販としては、非常によく流れまして、2月14日のバレンタインデーよりも前に、1週間前に売り切れるという好調でございました。

このほかに、新しいクリアファイルと絵はがきを製作いたしました。

手拭ハンカチにつきましては、市政功労者表彰の記念品として、お使い

いただいたところです。

こうした物販で得た収入で、自主事業を行っておりますが、「観梅のつどい」としましては、地域連携、博学連携ということでもあります。桐朋学園大学の学生さんに、観梅コンサートということで、演奏を行っていただきました。

もう一つ、公開ワークショップということで、「朗読で感じる実篤」。こちらは、朗読をただ聞くということではなくて、参加することで、実篤作品に親しんでいただくというものでございます。こういったものを開催いたしました。

施設管理運営事業でございますが、こちらに関しましては、7ページのほうをごらんいただきたいと思います。施設管理運営事業といたしましては、これまでどおり、安全・快適・清潔な施設の維持管理に努めてまいりました。

また、開館から32年が経過しております。老朽化などによるふぐあいが多くなっておりますので、こういったものへの対応を行っております。

また、展示ケース内の照明器具の交換などが起きておりました。

収蔵庫につきましては、収蔵庫の二酸化炭素消火装置のガス弁の取りかえが、3カ年計画の2年目ということで、実施をいたしました。

サインなどの整備も行っております。

実篤公園の日常管理に関しましては、調布市から、公園の日常管理の受託をいたしまして、これも4年目となりますが、こちらも公開にかかわる事業、清掃や警備など、日常管理を行い、必要に応じて、緑と公園課と協議をして、務めてまいりました。

また、9ページのほうをごらんいただきたいと思いますけれども、実篤記念館の職員の研修につきまして、こちらでご報告をさせていただきたいと思います。

専門性を高めるために、若手職員が、国ですとか、博物館や文化財にかかわる公益財団などで実施されている研修会、こちらに例を挙げましたが、文化財IPMであるとか、照明、先ほどちょっと触れましたが、ミュージアム・エデュケーターの研修といった研修であるとか、市役所が開催した広報研修といったようなものに参加して、スキルアップを図りました。

また、管理職を対象とした全国美術館会議の小規模館研究部会の研修会

「美術館と文学館との連携」に参加するなどを行いました。

こういった研修会などで、今日的な課題や動向、さまざまな情報収集に努めてまいりました。

平成29年度に関しましては、今のお話ししたことの上の部分に書かれていることになんですけれども、人材育成といたしまして、正規職員が幅広い業務経験を積むということで、学芸員として10年以上の経験がある中堅職員を、財団経営にかかわる業務を経験するというこのために、総務係に配置し、総務係で2年間業務に携わった若手職員で、学芸員の有資格者を、学芸業務を経験させるために、事業係に配置するなどいたしました。こういった形で、人材の育成を図っております。

簡単でございますが、事業について、ご報告は以上でございます。

○武者小路理事長      どうもご苦労さまでした。

ただいま、事務局から議案第1号の説明がございました。ご質問がありましたら、よろしくお願いいたします。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○武者小路理事長      ご質問ないようですので、異議なしと認め、議案第1号「平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館事業報告（案）の承認について」は、了承するという事に決定いたしました。

続きまして、議案第2号「平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館収支決算書（案）の承認について」を議題といたします。

では、事務局のほうから説明をお願いいたします。

○事務局      議案第2号「平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館収支決算書（案）の承認について」。上記の議案を提出する。平成30年5月2日。提出者、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館理事長、武者小路知行。提案理由、平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館収支決算書の承認を求めるため、提案するものでございます。

事前にお配りいたしました収支決算書をごらんいただきたいと思います。

まず1ページ目、収支計算書でございます。本財団の決算につきましては、公益財団法人の会計に準拠しました財務諸表により、ご説明させていただきます。

1ページの収支計算書でございます。平成29年4月1日から平成30年3月31日までの収支計算書でございます。一般会計と特別会計を分けて作成しており、左から予算額、決算額、差異。説明としては、主な収入、支出の内容を記しております。

まず、一般会計、Ⅰ、事業活動収支の部です。

まず、事業活動収入でございます。事業活動収入は、１、補助金、２、指定管理料収入、３、受託事業収入、４、利用料金収入、５、諸収入からなっております。

事業活動収入の合計は、決算額が１億２,９３０万４,４５０円で、予算額との差異は８１万２,４５０円の増ということでございます。

平成２９年度の特徴的なものとしましては、３、受託事業収入の２、受託事業（展覧会受託）でございます。先ほど、事業報告からございましたとおり、宮崎県高鍋町美術館の展覧会を受託した事業収入でございます。予算額３５０万円、決算額３５０万円、差異ゼロということになっております。

次に、４、利用料金収入でございます。８月のミュージアム、「文アル」コラボとの関係で、入館料が非常に多くなりまして、予算額１００万円に対して、決算額は１６１万６,３００円、差異としては６１万６,３００円の増になっております。予算に対しては、１６１.６％という状況でございます。

また、頒布資料も同じくかなり多く売れまして、１０万円の予算額に対して、決算額２２万６,８１２円ということで、差異としては１２万６,８１２円ということで、全般的に利用料収入と、それに伴って、諸収入も含めて、増になっております。こういった収入ということで、収入額としては、かなりいい成績になっているかと思えます。

次に、事業活動支出でございます。

まず、１、管理費支出でございます。これは人件費の支出でございます。常務理事１名、職員５名、再任用職員１名、嘱託職員３名、臨時職員５名の計１５名の給与、報酬、諸手当、社会保険、福利厚生、中退金の負担金、また職員の旅費でございます。

人件費全体の決算額は７,２４１万９,１５１円で、予算に対して、執行率は９６.６％になり、差額は２７１万４,８４９円でございます。この執行率に関してでございますが、当初予算時には、事務局長と常務理事が別々にいて、再任用職員ということは想定していなく、前事務局長が再任用に変更になるということで、その残額が大きいものになっております。

また、旅費でございますが、予算額４９万５,０００円に対して、決算額３７万３,６６０円でございます。差異としては、１２万１,３３４円でございます。これは、主に日向新しき村への調査ということで、当初考え

て、通常よりも、かなり大きい額になっておりました。

旅費のほうに関しては、日程が確実なものでございましたので、航空券とホテルの早割を活用いたしまして、正規航空券費用より、大幅に縮減できたということで、このような残額が残ったということでございます。

次に、2、事務費支出でございます。予算1,012万1,000円に対して、決算額が989万8,630円、差異は22万2,370円でございます。予算に対しての執行率は97.8%でございます。これらは、記念館財団の運営、所蔵資料、図書資料収集や所蔵資料の保険にかかわる事務費などが中心でございます。

その中で、負担金でございます。ぐるっとパス、全国文学館協議会等の負担金と職員研修にかかわる費用を、こちらから支出しております。

なお、ぐるっとパスは、1年ごとの実行委員会形式で、当初15万円の負担金を支払い、年度末の清算で、赤字が出なければ、15万円、戻ってまいります。このため、15万円を最後に戻入していることから、予算の残額は15万3,800円という形になっております。

公租公課について、ご説明させていただきます。一般会計では、指定管理料や受託事業収入、利用料金収入、諸収入が課税対象となります。総額に対して、課税収入割合で、特別会計と消費税は分けております。

その中で、一般会計が、今年度は85.08%、特別会計が14.92%となっておりまして、このため、消費税総額45万5,200円のうち、一般会計の消費税支出額が38万7,284円となりました。この費用が、公租公課の大半を占めております。

次に、繰出金でございます。決算額は7万円でございます。これは、法人税のうち、均等割分の7万円の費用でございます。

消費税は、一般会計、特別会計それぞれ、公租公課費から執行できますが、法人税については、一括で支払わなければならないということから、特別会計より一括で支払うため、その費用を繰り出すものでございます。

次に、2、事業費支出でございます。予算額2,131万4,000円に対して、決算額は2,045万2,639円、差異が86万1,361円でございます。事業費の全体の執行率は、予算額に対して、96%でございます。

次に、1、普及促進事業費支出でございます。普及促進事業費は、事業の中心となる展覧会や普及事業にかかわる費用でございます。

2ページにお移りいただきたいと思います。

残額がやや多いものについてご説明させていただきますと、役務費に関しては14万2,000円余り、残額がございます。これは、美術品の運搬や展示作業を中心とした費用支出でございまして、これに関しては、美術品運搬を、効率的に回数または日にちを少なくするような努力ということで、契約差額になっております。

委託料に関しては、18万5,170円でございますが、この主な支出でございます488万3,830円の支出の中には、映像作品の制作委託ということで、2カ年にわたって、新しき村の記録映像を撮影しております。平成29年度は、日向新しき村を中心とした撮影でございました。このため、通常よりは、若干、費用が多くなっている状況でございます。

次に、使用料及び賃借料でございます。予算額42万円に対して、16万980円、25万9,020円の残ということでございます。これについては、展示作品借用料が中心でございまして、平成29年度は、秋の特別展「素直に楽しむ実篤と民藝」というところで、日本民藝館から、作品を数多く借用することになっておりました。このため、当初の予算では、民藝館の正規の借用料の金額で積算させていただきましたが、さまざまな協力事業ということで、民藝館のほうで協力してもらい、借用料が縮減したことで、このような残になっております。

資料管理事業費の支出でございます。これは、所蔵資料の整備・保存にかかわる費用でございます。予算額176万9,000円に対して、執行額が174万4,313円、残が2万4,687円ということで、執行率は98.6%になります。

3、情報提供システム事業費支出でございます。情報提供システムの運用にかかわる費用でございまして、管理業務の委託と情報提供システムの機器のリース、プロバイダー費用が主なものでございます。

平成29年度は、システム機器のうち、サーバーなど、一部機器の入れかえを行いました。そのため、委託料のほうからは、この年度のみの執行でございしますが、データの移行作業の実施にかかわる委託費用を支出しております。

また、残りの機器については、再リースをして、経費の縮減に努めたことから、全体に昨年度よりも費用が若干安くなっているという状況になっております。

4、受託事業支出でございます。これは、宮崎県高鍋町美術館の展覧会への受託事業にかかわる経費の費用でございまして、95.9%の執行率

でございます。320万円に対して、306万7,431円、残額は13万2,569円となっております。

主に、宮崎の往復の美術品を運ぶ美術品の運搬費用、作品の借用に関する費用、展示撤去作業の立ち会いのため、高鍋町等への出張に伴う旅費が、主な支出になっております。

3、施設管理でございます。施設管理運営事業費は、実篤記念館の施設管理運営にかかわる費用でございます。1,549万1,000円の予算に対し、1,536万7,307円、残額は12万3,693円で、執行率99.2%でございます。実篤記念館にかかわる光熱水費、修繕、さまざまな保守点検の委託料等、また、駐車場の土地賃借料や監視カメラ等の使用料ということが、中心になっております。

2、実篤公園管理事業費でございます。638万2,000円の予算に対して、633万412円、5万1,588円でございます。実篤公園の日常管理にかかわる業務の費用、警備、清掃に関する委託料が中心の支出でございます。

以上で、事業活動支出の合計が、予算額1億2,844万2,000円に対し、決算額は1億2,446万8,139円、差異としては、397万3,861円となります。

事業活動収支差額でございます。決算額は483万6,311円の収支差額となっております。

次に、2、投資活動支出はございません。

Ⅲ、財務活動収支の部でございます。市への返還金でございます。補助金や指定管理料、実篤公園日常管理委託料の残額でございます。収支差額から受託事業費の残額、4の受託事業支出の高鍋町美術館での費用の残額13万2,569円を除いた額である470万3,742円が返還金となって、マイナスという形になります。

予備費に対しては5万円でございますが、決算としては、執行はございません。

次に、3ページをごらんいただきたいと思います。当期の収支差額でございます。決算額13万2,569円は、受託事業費の支出残額の分でございます。前期の繰越がゼロ円でございますので、次期の繰越出資差額は、13万2,569円となります。

次に、2、特別会計でございます。主に自主事業、ミュージアムグッズの物販事業の収入から、自主事業を支出するというような形になっており

ます。同じく平成29年4月1日から平成30年3月31日までの特別会計の収支でございます。

I、事業活動収支の部でございますが、事業活動収入は、決算額が770万3,533円となりました。8月のゲームコラボによる限定グッズの販売に加え、定番グッズの売り上げも増え、また高鍋町美術館での外部販売、限定チョコの販売も好調であったことから、全体の収入増となりました。

また、3、諸収入でございますが、先ほどの事業報告のとおり、写真貸し出しの件数がかかなりございまして、その収入が多く、決算額が43万5,508円ということになっております。事業活動収入の合計は、先ほど申しましたように、770万3,633円でございますが、収支の差異でございますが、32万8,633円の増でございます。

特別会計に関しては、補正もやらせていただいて、ミュージアムグッズの販売収入のほうでは、こういった形を、ある程度、反映した形の決算となっております。

次に、自主事業の事業活動支出でございます。

1、自主事業活動支出でございますが、積立金、2、物販販売事業の支出、3、自主事業費からなっております。

物販販売事業の支出の合計決算額は598万5,030円となります。ゲームコラボによる限定グッズに加え、定番グッズの増刷と収益増に伴う消費税や法人税の増がかかなり反映している決算額となっております。

この中で、物販販売事業の支出でございます。商品仕入費でございますが、決算額が490万2,538円でございます。実際の仕入費は、503万1,603円でございますが、8ページの貸借対照表の中で、流動資産の3の商品のところをごらんいただきますと、前年度と当年度の増減が、12万9,065円、商品期末残高では、多くなっております。この分が、商品仕入費から引かれる形になっておりまして、490万2,538円が、決算額となっております。

委託料に関しては、ミュージアムコーナーの改修プランの委託がございまして、9万9,630円の決算額となっております。この改修プランについては、後ほどのその他報告で、詳しくご紹介させていただきます。

次に、公租公課でございます。法人税（均等割も含む）一括支払いで、40万4,800円でございます。また、特別会計分の消費税6万7,916円、印紙代なども含め、決算額が47万2,721円となっております。

ります。

事業活動支出の決算額の合計が656万7,369円、差異が80万7,631円です。

済みません、1つ上の段の3の自主事業費でございます。58万2,339円、執行しております。これは、先ほど、事業報告でご紹介いたしました「観梅のつどい」、朗読会等の開催にかかわる経費、また、「文アル」でのコラボ事業にかかわる経費、備品購入費でございます。

備品としては、緊急的に購入いたしました除湿機1台と、柳宗悦の長男、柳宗理のデザインで有名なバタフライスツールを3個購入した費用が、主な支出となっております。

そして、事業活動の収支差額でございますが、決算額が113万6,264円となっております。

投資活動、財務活動支出はございません。

予備費支出もございません。

以上で、当期収支差額が113万6,264円、前期繰越収支差額が339万6,973円、次期繰越収支差額が、その合計453万3,237円でございます。

この450万円余りの金額は、財団発足からで、5年目で、このような繰越金額と累積でなっております。

次に、5ページをごらんいただきたいと思います。平成29年度の正味財産増減計算書でございます。平成29年4月1日から平成30年3月31日までの一般会計と特別会計を連結した事業全体の収支、資産の増減をあらわしています。

1、一般正味財産増減の部でございます。

1、経常増減の部でございます。

1、経常収益でございます。個々の当年度の金額については、さきにご説明しております収支計算書と同じ内容でございますが、右欄に主な増減の理由を記載しております。中でも、増減が大きな差がある項目について、ご説明させていただきます。

人件費補助金収入でございます。支出まともになっておりますが、職員1名増、昇給及び手当の増、非常勤・臨時職員の時給増に伴うもので、増減、992万9,000円余りの増となっております。

指定管理料に関しては、空調工事に伴う作品資料の保管にかかわる作業が終了したことから、前年度より396万9,000円の減となっております。

ます。

受託事業収入のほうでは、実篤公園の日常管理に関しては、８１万６，０００円の増でございますが、これは、シルバー人材センターにかかわる日常管理業務の人件費増でございます。

受託事業収入に関しての展覧会受託に関しては、前年度はございませんでしたので、受託費用３５０万円全てが増という形になっております。

利用料金収入は、先ほどご紹介したように、昨年度より、非常に多くなりまして、１０３万２５２円の増でございます。

このほか、諸収入では、講座参加者の増ということで、事業参加費が２万９，０００円余り、友の会会員費が増になったことで、２万３，０００円余り、諸収入の中で、費用が増となっております。

雑収入のほうは、３万５，８３１円減でございます。これは、主に、駐車場に置いております自販機の収入でございまして、昨年度は工事があったために、工事関係者がかなりジュースを買っていただいたというようなことで、若干の減ということになっております。

自主事業収入でございます。ミュージアムグッズの販売が好調だったということで、昨年度に対して、４０５万８，３３４円の増ということでございます。コラボ企画、限定チョコ、外部販売による売り上げ増、写真貸し出し件数の増というところが、主な増の理由でございます。

以上、経常収益に関しては、当年度、１億３，７００万８，０８３円、前年度から１，５５６万８，５９６円の増となっております。

## ２、経常費でございます。

人件費が、昨年度より、全体で１，５７０万７，４４３円増となっております。

先ほどの収入のところでご説明しましたように、職員１名の増、常務理事の復活、昇給による増、嘱託職員の時給の増、臨時職員の増ということ。

臨時職員に関しては、平成２８年度、空調工事の期間中、休館中に、１名、その時期だけ、減ということになっておりまして、その復活による増も含めて、７１万６８０円の増となっております。

社会保険料の増は、職員１名の増。社会保険対象者が増えているということでございます。

負担金に関しても、職員１名増ということでございます。

次に、事務費でございます。当年度、９８９万８，６３０円に対して、前年度より６１万５，６７３円の増となっております。

顕著なものは報酬でございまして、理事会の開催数、相談役の設置による報酬の増で、49万5,000円余りの増となっております。

次に、委託料でございまして、233万5,345円の当年度の決算に対して、昨年度より7万145円でございます。

会計事務のほうのマイナンバー管理のほうの業務が増えるということで、委託料が増えたものでございます。

次に、使用料及び賃借料でございまして、247万1,650円に対して、11万4,482円の増ということでございます。車両や事務用PCというようなことの契約、コピー機などを新たに入れかえたということで、全体的に増になっております。

公租公課に関しては、消費税が増ということで、増になっております。

次に、6ページをごらんいただきたいと思います。事業費でございます。

普及事業としては、当年度、2,045万2,639円でございます、昨年度より129万3,972円減でございます。

全体に、普及事業も、資料管理事業費も含めて……。特に資料管理事業費のほうで、空調改修工事に伴う資料の移動や保管の終了による減が、540万4,262円の減ということになっておりまして、多くは、それが大きな減の理由でございます。

これに対して、普及促進事業の全体、100万円余りの増ということでございますが、空調改修によって、臨時休館が終了したことによって、展覧会や事業が増になったこと、また、委託費のほうで、78万5,000円余りが増になっておりますが、これは、新しき村100年記録映像の撮影による増でございます。

次に、情報提供システムでございまして、425万1,036円でございます、全体の増減の中では、1万1,280円の増となっておりますが、委託料は、サーバー入れかえに伴うデータ移行の作業の増ということで、昨年度より32万2,423円増となっております。

これに対して、使用料及び賃借料は、マイナス31万1,143円の減でございます。これは、システム機器の一部再リースによる減でございます、さらに平成30年度は、再リース期間が長くなっておりますので、減になっていくものかと思っております。

次に、受託事業の展覧会事業に関しては、全て、初めてのことでございますので、306万7,431円が、前年度に比べて、増になるということでございます。

施設管理費でございます。2,169万7,719円の支出に対し、昨年度から312万4,093円の増となっております。

主に需用費の修繕費、改修費用の増ということと、委託料のほうで、隔年実施の燻蒸作業と環境調査の費用差額が200万円余となり、委託料のほうで、206万7,238円の増となっております。

次に、実篤公園管理事業費でございますが、先ほど、収入のところで申しましたように、78万7,504円の増でございます。シルバー人材センターにかかわる人件費の増ということで、このような金額が増になっております。

自主事業は、物販事業費の好調なもとで、支出が多くなっておりまして、336万1,169円の増となっております。

自主事業も、コラボ事業の開催、備品購入の増ということで、31万円余り増になっております。

以上で、経常費用の計でございますが、1億3,103万5,508円でございます。昨年度より2,182万5,247円の増となっております。

当期の経常増減額が597万2,575円、マイナス625万6,651円でございます。

返還金は、当年度は470万3,742円のご返却で、マイナスになっておりますが、昨年度が1,147万9,282円でありますので、マイナス、マイナスですけれども、それよりは、若干の677万5,540円の減という状況です。

当期一般正味財産増減額としては、126万8,833円。昨年度より、51万8,809円の増となっております。

次のページをごらんください。一般正味財産期末残高（D）というところがあると思いますが、今年度が466万5,806円。増減が126万8,833円に、正味財産増減の部ということで、寄付金という形で、7万円。法人税一括のための一般会計の均等割分が、こちらのほうに入って、これは税金対策ということも含めて、こちらの会計に入っております。

正味財産期末残高は498万9,768円で、昨年度より7万円増という形になっています。

Ⅲ、基本金増減の部でございます。財団発足に当たり、調布市より、基本財産300万円を出資された金額でございます。当期の増減額はございませんでした。

Ⅳ、正味財産期末残高でございます。当期が1,265万5,574円で

ございまして、増減が133万8,833円でございます。

次に、8ページ、平成29年度の貸借対照表をごらんいただきたいと思います。

これは、平成30年3月31日現在の負債を含めた資産の合計をあらわしております。現在の資産などが、どのような状態になっているかを示すものでございます。

I、資産の部、1、流動資産でございます。現金預金、未収金、商品、仮払金からなっておりまして、その合計が、当年度は3,038万9,033円でございます。前年度より275万1,779円のマイナスでございます。

次に、2、固定資産でございます。基本財産、投資有価証券でございます。基本財産300万円のうち299万5,202円を、基本、投資有価証券のほうで持っているということでございます。

次に、基本財産、その他固定資産でございます。リース資産でございます。1,034万3,248円で、昨年度に対して、207万6,144円の増となっています。これは、前年度に対しての増でございました情報提供システムの一部を入れかえたこと、コピーを1台、リースアップのために入れかえたことなどが、主に増になっている金額でございます。

以上で、固定資産の合計が1,333万8,450円。資産合計が4,372万7,483円でございます。

次に、II、負債の部、流動負債でございます。これは、平成30年3月31日現在の未払金、預り金、未払いの税金、リース債務に関するものでございます。内訳は、ごらんいただいたとおりでございます。

負債の合計が3,107万1,909円、昨年度より、マイナス201万9,266円の減でございます。

基本金は300万円。

寄付金は498万9,768円でございます。

3、正味財産の合計が466万5,806円になります。

以上をもちまして、正味財産の合計が1,265万5,574円でございます。負債及び正味財産の合計が4,372万7,483円となりまして、昨年度より68万433円の減でございます。

次に、9ページをごらんいただきたいと思います。財産目録は、平成30年3月31日現在の資産と負債の内訳になります。

まず、I、資産の部、1、流動資産のうち現金預金は、合計2,889

万6,759円です。

小口現金は、主に3月下旬の普通売上分が7万4,982円ということになっています。

普通預金は、三井住友銀行つつじヶ丘支店の一般会計用口座に、1,988万7,112円。

特別会計用口座として、みずほ銀行調布仙川支店が422万606円。

定期預金、これは特別事業積立金用の口座でございますが、三井住友銀行つつじヶ丘支店に471万2,059円ございます。

未収金は、グッズの売り上げ。

商品に関しては、先ほど申しましたように、3月31日現在の期末残高。

仮払金に関しては、平成30年度分のつり銭と手元金でございます。

以上、流動資産の合計が3,038万9,033円でございます。

2、固定資産でございます。

投資有価証券として、大阪府公募公債、5年物、第145回を299万5,202円でございます。

基本財産の運用先で、300万円に満たない状態でございますが、それは、普通預金のほうで管理しているという状況でございます。

リース資産は、先ほど申しましたとおりでございます。

固定資産の合計が1,333万8,450円。

資産合計が4,372万7,483円でございます。

Ⅱ、負債の部でございます。

未払費用でございます。管理費、事業費、施設管理費、自主事業費、市への返還金の未払費用でございまして、合計が1,871万4,901円でございます。

また、2、預り金としては、社会保険料や市民税を預かる職員の社会保険料の個人負担分、市民税の預り金でございます。合計が115万3,760円。

未払消費税、未払法人税、リース債務を合計しまして、流動負債の合計が3,171万909円でございます。

負債合計が同額となっておりまして、正味財産合計、資産合計から負債合計を引きましたものが1,265万5,574円でございます。7ページのⅣ、正味財産期末残高の金額1,265万5,574円と同額となっております。

財産目録までは以上でございます。

10 ページが財務諸表に関する注記でございます。

財務諸表に関する重要な会計方針が記載されております。この会計は、公益法人会計を基準として、採用しているということ、棚卸資産の評価方法、消費税等の処理方法などを記載しています。

11 ページをごらんいただきたいと思います。4月25日に行われました新井監事、源後監事による業務監査及び会計監査の結果につきましての監査報告でございます。

以上、雑駁でございますが、平成29年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の収支決算書の説明とさせていただきます。

○武者小路理事長      ご苦労さまでございました。

ただいま、事務局から、議案第2号の説明がございました。

続きまして、新井監事から、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館定款第26条の規定により、平成29年度収支決算につきまして、監査報告をしていただきます。よろしくお願いいたします。

○新井監事      それでは、監事報告をさせていただきます。

監事を代表いたしまして、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館定款第26条及び関連法令に基づきまして、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの平成29年度における業務監査及び会計監査の結果につきまして、ご報告を申し上げます。

去る4月25日、調布市武者小路実篤記念館におきまして、関係帳簿をもとに、平成29年度の決算につきまして、事務局より説明を受けました。

記載された全ての内容につきまして、慎重に監査をいたしました結果、事業報告は妥当であり、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録は、一般に公正・妥当だと認められました。公益法人会計基準及び関係法令並びに一般財団法人調布市武者小路実篤記念館定款及び会計規程に従い、法人の財産及び収支の状況を正しく表示しているものと認め、事務処理上及び計数上、いずれの点につきましても、適正に執行されているものと認められました。

以上です。

○武者小路理事長      ありがとうございます。

ただいま新井監事から報告がありました。

決算全般について、質疑・ご意見はございませんでしょうか。

どうぞ。お願いします。

○安本理事      今、説明、どうもありがとうございました。

収入のほうで、受託事業や利用料が大幅に伸びていて、これは、ほんとうに記念館の皆様の工夫とご努力の成果かと思います。

一方、支出のほうも、さまざまなところで、運営のご努力をされて、経費を圧縮されているということを感じまして、ほんとうにお疲れさまと申し上げたいなと思います。ありがとうございました。

以上です。

○武者小路理事長　　よろしいですか。

○安本理事　　はい。

○武者小路理事長　　そのほかに、ご意見、ご質問はございませんでしょうか。特にございませんか。

それでは、異議なしと認め、議案第２号「平成２９年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館収支決算書（案）の承認について」は、了承することといたします。

議案につきましては、以上となります。

続きまして、報告事項です。事務局からよろしくお願いします。

○事務局　　それでは、報告事項について、ご報告をさせていただきます。報告第１号「平成３０年度調布市議会第２回定例会に提出する平成２９年度一般財団法人調布市武者小路実篤記念館の経営状況報告について」でございます。

こちらにつきましては、調布市における私ども一般財団法人調布市武者小路実篤記念館は、調布市の財政管理団体となっております。先ほどご審議いただきました決算書をごらんいただきましても、市からの補助金、指定管理料が、大きな私どもの活動源となっている次第でございます。

そういう状況の中で、私ども、平成２９年度における事業、収支決算に係る経営状況につきましては、来る平成３０年６月に、平成３０年調布市議会第２回定例会が開催される予定になっておりますが、そこで、報告案件として提出する必要があるがございます。

報告の内容につきましては、先ほどご審議いただきました私どもの事業報告、決算報告等をもとにして、経営状況報告書を作成いたしまして、議会に報告をさせていただく予定でございます。ご承知おきいただきたいと思います。

お手元に……。

○事務局　　本日お配りした資料の中でございます。

○事務局　　事業計画書が入っていると思います。こういう、こちら側に、

(案)と書いてあるものでございます。

こちらが、表紙にございますとおり、私ども調布市武者小路実篤記念館の平成31年度から5年間の中期基本計画の内容をまとめたものとなっております。

こちらは、先ほど、冒頭に、私ども事務局のほうから、ご案内をさせていただきましたが、平成31年度からの私どもの今、指定管理をいただいている調布市武者小路実篤記念館の新たな指定管理者が、今年度中に選定をされるということがございますので、私どもも次期の5年間を、また指定管理者として、事業を行わせていただきたく、お手元の内容に従いまして、まとめさせていただいたところでございます。

今後でございますけど、指定管理の選定が行われる前に、また改めて、理事会と評議員会を開催させていただきまして、私どもが指定管理を受託する選定に向けて、それを望む内容につきまして、ご説明をさせていただきたいと思っております。

本日お配りしましたものを、お手数ですが、ご一読いただきまして、次の臨時理事会の中で、また皆様のご意見、ご指導を賜りたいと思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

内容につきましては、細かくお話しする時間がございませんので、あれですけど、目次のところをごらんいただきますと、わかりますとおり、3章に分かれまして、計画の背景と、私どもが望む基本的方向性。第2章で、全体として、どういう方向を目指すかという全体像。第3章は、それに基づいて、個別にどういう事業をやっていくのかという内容で、まとめております。

最後に、調布市武者小路実篤記念館の社会教育上の位置づけということで、私ども、社会教育施設に準じる施設として、その位置づけを念頭に置いて、この計画を策定しておりますので、あくまで案でございますので、また、次回、指定管理の関係で、皆様にご審議をいただくということで、お読みいただいて、ご意見、ご指摘を頂戴できればと思います。よろしくお願いを申し上げます。

その他、私どものほうから、報告事項がございますので、よろしくお願い致します。

○事務局　本日お配りいたしました資料を中心に、ご説明させていただきます。

まず、現在開催しております、春の特別展「誰でも画（え）はかける」、

小池邦夫がえらぶ武者小路実篤の書画のパンフレットができ上がっております。

こちらのパンフレットは、今回監修していただきました、絵手紙の協会の創立者である小池邦夫さんに寄稿していただいたり、それぞれのコーナーで、小池語録が出ておりますので、そういったものも含めて、ごらんいただいて、また、展覧会のほうも、よろしければ、ごらんいただければと思います。これまでとちょっと変わった展示構成になっておりますので、そういったところも楽しんでいただければと思います。

監修の小池先生は、開催日前日と当日に、長い時間、滞在して、ご協力いただき、また、非常に感激して帰られたようで、本日、長々と絵手紙が、また館のほうに送られているというほど、喜んでいただいているようでございます。

絵手紙の関係者の方もかなり来ていらっしゃるようでございまして、5月23日には、小池先生の講演会が他地区でも開催されるということで、もう既に定員の半分以上の応募がある状況だと伺っております。

それ以外に、本日の事業報告等の裏づけとなります、参考資料1、2、3ということで、事業記録ということで、グラフィカルな事業報告、利用者の3年間の推移、平成29年度、館内でお配りいたしましたアンケートにお答えいただくという形のアンケートの集計グラフでございます。これについて、ちょっとご説明させていただきます。

これまでアンケートの回収は、5%から10%、約1割がいいところというところでございました。昨年度ございました第三者評価でも、アンケートの回収率を高めるようにということで言われまして、これまで、ただ休憩コーナーに置いているだけのアンケートを、入館していただく方、全員に配布するということにして、回収率が24.3%アップとなっております。入館者1万1,233人に対して、アンケート回収率が、2,729枚ということでございます。

主に8月以降の「文アル」さんたちのアンケートが、ものすごく多かったということも反映しております。ただ、「文アル」のファンが、リピーターとして、かなり来ていただいております、館とつながるということが、喜びの1つ、展覧会を見に来て、要望やいろいろなお礼といったものを書きたいというところはかなりあります。

かなり広範の5ページ以降のいろいろな内容というところでございますけれども、昨年度からよりは、一変した形で、非常に実篤記念館への思い

を寄せているというようなご要望、ご意見というよりは、何か非常にお手紙を書いてくださっているようなことになっております。

ただ、そういうことが、かなりを占めているということと、この中でも、やはり要望やその時代の傾向というものが、かなり酌み取れますので、そういったものに、今後も事業活動などに利用していきたいと思っております。

アンケートのほうでございいただくと、昨年、2の年代でございますけれども、20代、30代が、かなり増えております。20代に至っては、平成28年度は5%だったんです。それに対して、31.9%増えているという状態。30代も4.6%が、15%に増えているという状況でございます。

また、来館者の利用者数も、他府県の内訳は、かなり全国的にわたっているということが、1ページから2ページにわたって、県名が書いてありますので、わかるかと思えます。

また、7の情報でございます。こちらは、複数回答ではございますけれども、インターネットの割合が非常に増えております。2ページの一番下の左側でございます。

昨年度までは16.8%、ほぼ同じような数字でございましたが、今年は47.6%を占めておりまして、ほとんどの方がインターネット等での情報で得ているということでございます。

それ以外で、記念館の印象、情報提供のレファレンス、よいという展覧会というアンケートが、昨年度よりも、かなり高まっているという状態の中で、10-4のミュージアムショップの内容は、相変わらず、よいという方は多いですけれども、そのほかの評価のわりには、普通というようなこととか、無回答というような状況で、約3分の1ぐらいは、まだ反応が鈍いのかなという状況になっているかと思えます。

4ページの今後希望するテーマも、複数回答ではございますが、非常に、文学、書画、人物……。人物、生涯が多うございますけれども、白樺、新しき村、収集美術品、交友関係という、非常にバランスのとれた要望になっております。

これは、記念館としても、展示や事業の中で、やはり、こういったことをテーマに少しずつ、毎回変えているということが、非常にいい反映をしているのか、また、その利用者にとって、ニーズがあるということが、改めて裏づけられた結果かと思えます。

5 ページ以降は、皆さんのお話、利用内容、アンケート内容の自由記載のところを書かせていただきました。その中で、昨年までと同様、サインや展示室内の温湿度や音に対するクレームというものが、相変わらずございます。

サインについては、反対に、わかりやすかった、ありがたいというようなこともあって、何年かにわたって、サイン改修を続けてきた成果が、少しずつ出ているのかなという気もいたしております。

主には、毎回申しますように、クレーム、要望というよりは、どちらかというと、記念館の支援、励ましといったような内容が、むしろ多い状況でございます。

次に、ミュージアムグッズコーナーの改修プランをごらんいただきたいと思えます。

先ほどのアンケートにもございましたように、ミュージアムコーナーについての評価が、良いということは多くはございますが、意外とはかばかしくない状況でございますことが、続いておりました。それが改修計画のきっかけでございます。

また、もともとグッズ販売をしているコーナーがございます、入口のロビーでございます。館がつくられるとき、増築するときに至っては、まだ、グッズ販売が、ミュージアムを訪ねるための楽しみの1つとしてなっている状況ではなかった時代でございます。ほんのちょっとカタログや色紙や絵はがきを売っているという状況で済んでいた時代でございます。

それ以降、グッズの販売などが、ミュージアムを訪ねるときの非常に楽しみの1つに変わってきたということがございます。

改修プランの1 ページをごらんいただくとおり、現状の実篤記念館のロビー、展示室から出てきたところの状態でございます。機能を非常に満たすことを、必要に応じて、その都度、調達されてきたということが、まさにそうございまして、統一感のないものになっているということで、これをいかに改善するかということを検討してまいりました。

委託先としましては、実篤記念館の設計をいたしました坂倉建築研究所に、以前、在籍しておりまして、増築の時期に、実施設計などにかかわってきた方で、かつ、その後も、大きな空調工事や平成17年の浸水害のときの以降の復旧工事などでも、設計監理、監督をしていただきました服部さんという方をお願いをいたしました。

といいますのは、やはり、先ほど申しましたように、グッズコーナーが、

当初の設計の中の想定する時期には、考えられなかったということと、やはり、ロビーという当初の実篤記念館の顔になる場所を設計していただくには、坂倉のイメージを持たせた形のほうがよいだろうということで、服部さんに改修プランの作成をしていただきました。

その中で、大切にしたいということでは、素材感を大切にする。これは、実篤記念館の全体のコンセプトにもなっておりまして、石、木、コンクリート、鉄、ガラスなど、素材の持つ力を表現したつくりは、ほかにはないということの大きな魅力を持っているということ、こういったものを大切にするということ。

グッズコーナー、ロビーでございますけれども、エントランスホールは、全面ガラスでございますして、床部は外部からつながる特徴のある仕上げ、外のガラスが大きいことで、緑も見ることができるといふ、非常に優しい形で、半屋外的な印象があるものであるということ。そういったものを想定して、プランの概要を考えていただきました。

2 ページにございますように、イメージができておりますが、材種・色合いというようなものを統一した什器によって、構成するということ。コンパクトにまとめて、エントランスホールをすっきりした空間にするということ、エントランスホールが、半屋外的な部分があるので、そういったイメージも、うまく利用した形でつくるということでございます。

2 案を出していただきました。既成の什器の選定による構成案である A 案が、3 ページと 4 ページに、参考の資料がございます。

ほぼ同じようなレイアウトでございますけれども、什器のリスト B、レイアウトで、什器は製作しましょうということで、必要な機能を効率よくまとめた独自の什器、本物の木を使い、素材感・同材料使用で、統一感を高くするというような想定のものでございます。

A 案の場合は、移動できるものが、わずかな什器になっておりますが、製作の場合は、6 ページから 8 ページにかけて、簡単なラフな設計図があります。こういった設計図の中で、足元をごらんいただくと、わかりますように、大きな車輪をつけて、移動が可能であるということで、多少何か大きな展覧会だったり、この間のコラボ企画みたいなことで、特殊な事情のときには、事情に合わせて、レイアウトすることができるといふようなフレキシブルさも考えた形の想定になっております。

費用に関しては、9 ページにございます。金額的には非常に大きくなっております。その差が大きうございます。既成什器の場合でも、100 万

円余りかかるという状況でございます。

製作什器の場合は、400万円弱ということになっていますが、製作什器に関しても、これは、現在、大まかな見積もりでございまして、これを改めて地元の制作会社のほうに、今後見積もりをとって、どの程度の費用の差が出てくるのかということも考えながら、最終的には決定していきたいと考えております。

10ページで、まとめで、既成什器による構成は、金額的には抑えられますが、記念館の独自性や施設全体の素材感、本物の持つ雰囲気にとぐわないところがある。比較的安価とはいえ、総額はかなりの金額になりますので、一度導入すると、容易な買い換えはできないことが考えられます。

記念館の価値を将来にも継続するためには、単年度ではなく、複数年度にわたる計画を導入して、製作什器をするほうも検討が必要かという2案を提出していただいております。

記念館側の職員のほうでは、現在、B案をうまく取り入れて、かつ、経費を縮減し、複数年度にわたり、やっていきたいと思っております。まずは、陳列棚を入れることで想定し、平成30年度の予算にも計上させていただいております。

財源としては、先ほど、決算でご紹介いたしました特別会計の繰越金を中心に、利用していきたいと思っております。特別会計のほうも、収入が、今年のように、潤沢な状況であるかどうかはわかりませんので、今後、順次、繰越金の状況や財務状況を見ながら、追加していくという状況を考えております。

それ以外に、3月以降に、実篤記念館の新聞記事が、読売新聞から出たということと、小池先生が主宰しております絵手紙協会の定期購読誌のほうで、実篤を特集していただきましたので、その記事の箇所をご紹介します。

報告は以上でございます。

○武者小路理事長      ありがとうございます。

ただいま事務局から、報告事項の説明がありました。ご質問等はございますでしょうか。

はい。

○安本理事      ミュージアムグッズコーナー改修プランについてですけども、2ページのこのイメージの絵は、あつらえた場合のものですね。

○事務局      そうです。

○安本理事 わかりました。

○事務局 ただ、これは、やはり、パンフレットをどれだけ入れるとか、絵はがきをどのように陳列するかということは、まだ、最終的な詰めは全然できていないので、今年度前半に、実施設計を引いてもらうことになっておりますので、そこで、設計者側とうまくサジェスチョンをして、必要なもの、今あるけれども、これは、ほかの場所でいいよねというようなものをうまく選別して、選択、集中したいと思っております。

○安本理事 わかりました。

○武者小路理事長 ほかにご質問はございませんでしょうか。

○安本理事 あと1点、よろしいでしょうか。

○武者小路理事長 はい。

○安本理事 利用者の推移グラフについてですけれども、確かに8月に、「文アル」コラボで、ぐっと伸びて、大きな山ができています。ところが、その後の青い軸線は、例年とさほど変わっていないかと思えます。

やはり、これだけの人をつなぎとめるということは、ツイッターで、情報を発信するということのほかに、また、この20代、30代のファンを狙った企画は、今後、何か考えていらっしゃるのでしょうか。「文アル」とは、この後は、もう、また企画はないんですか。

○事務局 「文アル」ということだと、まだ具体的にはないんですけれども、ただ、平成30年度も検討をしたいということでは思っておりますので、これから、あちらの意向とすり合わせてと考えております。

○武者小路理事長 確かに人数的には、あれなんですけれども、来場者を見てみると、若い人が多くなっていることは間違いないと思うんです。

先ほどの報告の中にもありましたけど、リピーターの方も結構いらっしゃるんで、一時的なという感じでなくて、来館者がいろいろ感想を書くノートがあるんですけど、それにも、「文アル」で来て、今回、何回目ですみたいなことが幾つも出てきますので、確かに全体の人数としては、変わりはあんまりないかもしれないんですけれども、若い人が増えているということは、間違いないと思います。

○安本理事 先ほども、こちらに来る前に、記念館のほうに伺ったんですけど、若い学生さんふうの男性が、一生懸命、ノートをメモしていらして、いや、この人たちは、どういうきっかけでいらしたんだろうと、後ろをのぞいていたんですけれども。

○武者小路理事長 「文アル」のコラボは、女の子がほとんどだったで

すね。男の子は、付き添いで来ているというか、引っ張られて来ているという子が多かったようです。

ほかにご質問はございませんでしょうか。よろしいですか。

それでは、ご報告も了承していただいたということで、本日の議案及び報告事項は、全て終了いたしました。

それでは、これもちまして、一般財団法人調布市武者小路実篤記念館平成30年度第1回定時理事会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

(午後2時35分 閉会)